

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

小学校 第1学年 「国語（教育出版）」

214時間（70%）

週	重点に置く指導事項	単元名	教材名	時間数	習得点		
一上							
1	Aオ 知・技(1)イ		なかよしの き	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の教育との接続を考え、伝え合う活動が多く組み込まれている</li> <li>・時間数の精選方法にあるように、机に座って距離を保って交流したり、教卓との一定の距離をとりマスクをつけてみんなに伝えたりするなど、伝え合う方法の工夫を心がける必要がある</li> <li>・生活科との関連を図ることも考えられる</li> </ul>		
	Aア 知・技(1)イ		たのしい いちにち	2			
	Aキ 知・技(1)イ		わたしの なまえ	2			
	知・技(3)エ		おはなし たくさん ききたいな	1			
	Aウ 知・技(1)イ		こえの おおきさ どれくらい	1			
	知・技(1)ウ		かいて みよう	2		・書写（※1）と関連を図る（参考：県教委オンラインサポート授業）	
	2		知・技(1)イウ	こえを あわせて あいうえお		1	・口の形を意識させる（参考：県教委オンラインサポート授業）
			知・技(1)ウ	あいうえお		1	・「4つのへや」のどこから始めてどこに向かうのかを意識して書かせる（参考：県教委オンラインサポート授業）
			書写	鉛筆の持ち方と姿勢（※1）		1	・正しい姿勢や筆記具の持ち方を意識させる
			Aエ 知・技(1)ア	みつけて はなそう、 たのしく きこう		2	・言葉の働きに気付かせるとともに、相手の語に耳を傾けることを意識させる
知・技(1)ウ		かき、かぎ	1	・教科書に載っている言葉や例文を繰り返し読んだり書いたりさせる			
知・技(1)オ		ことばを あつめよう	1	・書写（※2）と関連を図る			
Cイ 知・技(1)ク		くまさんと ありさんの ごあいさつ	2	・登場人物の会話に着目して音読することを中心の活動とする			
知・技(1)ウク		ねこ、ねっこ	1	・教科書に載っている言葉や例文を繰り返し読んだり書いたりさせる			
3		知・技(3)エ	ほんを よもう	2	・学校図書館を活用し、様々なジャンルの本があることを気付かせる		
		知・技(1)オ	ことばを つなごう	2	・ことばつなぎの方法を理解させ、楽しく取り組ませる ・書写（※2）と関連を図る		
	知・技(1)ク	たのしく よもう1 あいうえおの うた	2	・歌や五十音の縦横読みを行い、言葉を伝え合う楽しさに気付かせる （参考：県教委オンラインサポート授業）			
	知・技(1)ウ	ごじゅうおん					
	Cイ 知・技(1)ク	けむりの きしゃ	4	・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることを中心の活動とする			
	4	書写	ひらがな（※2）	3	・点画の書き方、文字の形、筆順に注意してひらがなを書かせる		
		知・技(1)ウ	のばす おん	1	・教科書に載っている言葉や例文を繰り返し読んだり書いたりさせる		
		Bウ 知・技(1)カ	せんせい、あのね	2	・文の型を基に書くことを中心の活動とする		
		Aア 知・技(1)キ	みんなに話したい話題を選び、必要な事柄を話すことを中心の活動とする	3	・みんなに話したい話題を選び、必要な事柄を話すことを中心の活動とする		
		知・技(1)ウ	たのしく よもう2 がぎげごの うた	1	・何度も繰り返して声に出して読ませ、言葉を伝え合う楽しさに気づかせる		
5		Bア 知・技(1)ア	よく みて かこう	3	・生活科との関連を図る		
		知・技(1)ウ	すずめの ぐらし	5	・場面の様子やすずめの行動を写真と照らし合わせ、内容の大体を捉えることを中心の活動とする		
		知・技(1)ウ	しや、しゅ、しよ	1	・教科書に載っている言葉や例文を繰り返し読んだり書いたりさせる		
		知・技(1)ク	たのしく よもう3 きやきゆきよのうた	1	・何度も繰り返して声に出して読ませ、言葉の楽しさに気づかせる		
		6	書写	ひらがな（※1）	3	・点画の書き方、文字の形、筆順に注意してひらがなを書かせる ・似ているひらがなや字の形を意識して書かせる	
	Bア 知・技(1)ウ		しらせたい ことを かこう	10	・教科書の例文から必要な事柄を書くことを理解させ、知らせたいことが書かれているかを確かめることを中心の活動とする		
	7		知・技(1)ウ	は、を、へ	1	・教科書に載っている言葉や例文を繰り返し読んだり書いたりさせる	
			知・技(3)エ	としよかんへ いこう	1	・図書館がどんなところなのか、どんな種類の本が置いてあるのかを確認しながら、本への興味を持たせる	
			知・技(1)ウ	おはなしの くに	2		
			Cイ 知・技(1)ク	おおきな かぶ	6	・音読の仕方をおさえた上で、想像したことを音読劇であらわすことを中心の活動とする	
8			Bイ 知・技(1)ウ	えにつき	3	・夏の出来事を思い出しながら、事柄の順序を考えながら絵日記を書くことを中心の活動とする	
			Aイ 知・技(1)イ	なつの おもいでを はなそう	4	・絵日記で書いたことを基に、相手に伝えるように必要な事柄の順序を考えながら話すことを中心の活動とする	
			9	知・技(1)ウ	かたかなの ことば	1	・書写との関連（※3）を図る
				書写	かたかな（※3）	2	・点画の書き方、文字の形、筆順に注意しながらかたかなを書かせる ・方向の違いや平仮名との違いに気を付けて書かせる
		Cイ 知・技(1)エフ		けんかした 山	6	・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることを中心の活動とする	
		知・技(1)エ		みんなで たのしく よみましよう			
	知・技(1)エ	かん字の はじまり		2	・象形文字の成り立ちについて指導し、漢字に興味を持たせる		
	10	書写		かん字	2	・点画の書き方、文字の形、筆順に注意しながら漢字を書かせる ・正しい筆順で書くことで字形が整えやすいことを意識させる	
		Cア 知・技(1)カフ		だれが、たべたのでしょうか	5	・場面の様子や動物の行動の様子から、内容の大体を捉えることを中心の活動とする	
		11		Bアイ 知・技(1)ウ	たのしかった ことを かこう	8	・楽しかったことやがんばったことを思い出し、その中から書くことを選び、事柄の順序を考えて書くことを中心の活動とする ・原稿用紙の書き方を確認し、句読点の打ち方やかぎ（「」）の使い方を理解させる
知・技(1)エ 知・技(3)エ				かぞえうた	2	・数の教え方を確認し、言葉遊びを楽しみながら繰り返し音読させる	
				かぞえよう			

一 下					
12	Cエ 知・技(1)ク	◆しを よもう あめの うた	1	・雨の様子を想像しながら読ませる	
	Bアウ 知・技(1)ウ	見つけたよ、いきもの ひみつ	6	・生き物の大きさや色、形といった様子や動きをメモにとり、伝えたいことを選んで書くことを中心の活動とする	
13	Cアウ 知・技(1)オ	一 かかれて いる ことを たしかめよう	6	・自動車の仕事と構造を表す文に着目させ、説明の順序に気をつけて内容を捉えることを中心の活動とする	
	Bイ 知・技(1)ウ	「のりものカード」で しらせよう	8	・自動車の仕事と構造に分けられた構成シートを活用し、説明の順序に気をつけて書くことを中心の活動とする	
14	Aア 知・技(1)オ	えを 見て おはなししよう	4	・必要な事柄を選ぶ際の視点を確認し、例文を参考にして話すことを中心の活動とする	
	知・技(1)エ	かん字の ひろば① 日づけと よう日	2	・誕生日を紹介し合うことを中心の活動とする	
15	Cイエ 知・技(1)ク	二 しゃしんと 文から、だれが なにを したか を たしかめよう	8	・出来事の順序に気をつけながら「だれ」が「なに」をしているところなのかを確かめて読むことを中心の活動とする	
	Bアイ 知・技(1)ウ	きこえて きたよ、こんな ことば	4	・写真のふきだしから作った会話文をもとに、自分の考えが伝わるような簡単な構成を考えて書くことを中心の活動とする	
16	知・技(1)ア	天に のぼった おげやさん	1	・教師が読み聞かせを行う	
	知・技(1)ウ	かたかな	1	・書写(※2)との関連を図る	
	知・技(1)エ	かん字の ひろば② かん字の よみかた	1	・漢字には読み方がいくつかあるものがあることを理解させる	
	Bウオ 知・技(1)ア	こころ ぼかぼか 手がみを かこう	3	・自分の気持ちを相手に伝えることを意識させながら手紙を書かせる ・手紙の感想を伝え合い、自分の表現のよいところを見つけることを中心の活動とする	
17	書写	書きぞめ	2	・書き上げた作品は、観点を定めて、互いの作品を評価し合う時間をとる	
	Cエ 知・技(1)エ	三 ぼめんの ようすを くら べて よもう	5	・様子が分かる言葉に着目させ、場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像することを中心の活動とする	
	Cオ 知・技(1)ア	「おはなしどうぶつえん」をつくつ て、本を しょうかいしよう	5	・動物の出てくる本の名前と作者の名前、自分の名前をカードに書き、本を紹介し合うことを中心の活動とする	
	Cエ 知・技(1)ク	◆しを たのしもう ゆき	1	・言葉のリズムを楽しみながら読むことを中心の活動とする	
18	Cオカ 知・技(1)ア	四 ぶんしょう と えを あわ せて よもう	11	・絵と文章の説明を対応させながら、物語の内容を捉えることを中心の活動とする	
	知・技(1)カ	文を つくろう	1	・主語と述語の関係を理解させる(参考: 県教委オンラインサポート授業)	
	知・技(1)エ	かん字の ひろば③ かわる よみかた	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う	
19	Aウエ 知・技(1)イ	五 きいた こ とを 正しく つたえよう	7	・話の内容の大事なところを落とさないように聞くことを中心の活動とする	
	知・技(1)ア	ことばで つたえよう	2	・物の様子(色や形、食感、手触り等)や感想を詳しく伝えることを中心の活動とする	
20	B 知・技(1)ウ	六 つたえたい ことを おも い出して かこう	7	・1年間の「書くこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点をあてて指導する	
	知・技(1)エ	かん字の ひろば ④ にて いる かん字	2	・設問は家庭での課題とし、確認を行う	
	知・技(1)イ	しりとりで あそぼう	1	・しりとりで遊び、言葉を伝え合う楽しさに気付かせる	
21	書写	まとめ	2	・1年生のまとめとして、学習したことを生かして書かせる ・水書用筆を使用した運筆指導を取り入れてもよい	
	C 知・技(1)カ	七 ようすを おもいうかべな がら よもう	12	・1年間の「読むこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する ・登場人物に言いたいことを手紙に書かせる	
	Aア 知・技(1)カ	こくごの がくしゅう これまで これから	2	・教科書の目次や内容、ノートを見ながら、どのような言葉を読んできたかを振り返らせる	

### ※時間数の精選方法(例)

#### ○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする

・複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力(指導事項)を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、教材「たのしかったことをかこう」では、指導事項アの「必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすること」を中心に指導し、教材「思い出のアルバム」では、指導事項イの「事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」を中心に指導を行います。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」も同様です。

#### ○家庭での課題として取り組ませることで、学習を補う

・言葉に関する学習に出てくる設問などは家庭での課題として取り組ませ、後日、確認を行います。

#### ○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が〔知識及び技能〕(3)「我が国の言語文化に関する事項 エ」になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。教材「ほんをよもう」「おはなしどうぶつえん」をつかって、本をしょうかいしよう」の学習から、学校図書館や地域の施設を活用し、家庭での読書につなげることも可能です。

#### ○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導に関しては、小学校1学年では年間30時間程度行うものがありますが、教育出版では、平仮名、カタカナの学習やマス目用紙を使って書く「書くこと」の領域の学習において、点画の書き方や文字の形に注意しながら筆順に従って丁寧に書くといった指導事項をおさえることが可能です。(本資料では、書写に取り立てた指導を15時間(50%)で作成しています)

#### ○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少人数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や児童の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。